

はしがき

本報告書は平成 23 年度アジア経済研究所・研究事業「アジア長期経済成長のモデル分析」の研究成果報告である。

アジア経済研究所では平成 21 年度に基礎理論研究会「政策評価のためのマクロ計量モデル」研究会を組織し、その研究成果を野上裕生・植村仁一編『開発途上国のマクロ計量モデル』（2010 年 3 月、日本貿易振興機構アジア経済研究所）として公刊した。また平成 22 年度には内需を重視した長期的に持続可能なアジア経済成長への道筋を探るために、マクロ計量モデル分析への準備作業の報告を野上裕生・植村仁一編『アジア長期経済成長のモデル分析(I)』として公刊した。この成果を発展させたものが、本報告書である。

本報告書の第 1 章（野上裕生「アジアの国内需要と人口変動の計量モデル分析」）は人口構造変化のマクロ経済への影響を考慮したマクロ計量モデルをアジア諸国に対して推定し、人口変動の有効重要へのインパクトを探るものである。第 2 章（植村仁一「東アジア地域・貿易リンクモデル構築に伴うプログラム解説」）は人口変動のマクロ経済へのインパクトの国際的な波及効果を分析するための貿易リンクモデル作成作業を効率的に進めるプログラムの解説である。第 3 章（渡辺雄一「韓国の消費需要と人口変動のマクロ分析」）は韓国の消費関数に人口変動の影響を組み込んだモデルの概要である。第 4 章（大泉啓一郎「国連の世界人口推計による東アジアの人口動態と特徴－中位推計とその取り扱い上の注意点－」）は 2011 年 6 月に発表された国連の『世界人口推計：2010 年改正』を使って東アジアの人口動態の特徴を概説し、その利用上注意すべき点を解説したものである。第 5 章（植村仁一「各国モデルの貿易リンクシステムとの接続－中国を例として－」）はアジア各国のマクロ計量モデルを貿易リンクモデルに接続する方法を解説したものである。後半部分の『データ篇』は上記諸論文で利用された統計データの値、その出所と作成方法をまとめたものである。

本研究事業の実施では様々な方々のご支援をいただいた。研究会講師として原俊彦先生（札幌市立大学教授）にはシステムダイナミックスモデルによる人口構造変化の研究動向について報告していただいた。また山田光男先生（中京大学経済学部教授）には、産業連関を考慮した多部門計量モデルの現状を報告していただいた。最後に、アジア経済研究所・研究業務調整室の方々には、実務面でのご支援をいただいた。こうした様々な方のご指導・ご支援に対して、心から御礼申し上げたい。

2012 年 3 月

野上裕生（開発研究センター）